

第 11 回淡水ガメ情報交換会 外来種シンポジウム 「ニホンイシガメをクサガメからどうまもるか」開催

谷口真理

673-0012 兵庫県明石市和坂 1-15-34 株式会社自然回復 第 11 回淡水ガメ情報交換会実行委員会
The Invasive Species Symposium, How to protect the Japanese pond turtle from the Reeves' pond
turtle, was held on the 11th Freshwater Turtle Information Exchange Meeting.

By Mari TANIGUCHI

Nature Recovery Co., Ltd., 1-15-34, Wasaka, Akashi, Hyogo 673-0012 Japan

日本列島に生息するクサガメは中国大陆や朝鮮半島から移入された外来種であるとの説を支持する研究結果が、2011 年前後からこれまで複数分野において発表されてきた。ところが、クサガメは古くから日本列島に生息しているがために、その問題がわかりにくい側面が存在する。そこで、淡水ガメ情報交換会では、クサガメに関するシンポジウムなどをこれまで複数回開催し、その問題について考える場を設けてきた。

今回の第 11 回淡水ガメ情報交換会(2025 年 3 月 15-16 日開催)では、ニホンイシガメの保全に対するクサガメ対策について考える機会となるよう外来種シンポジウム「ニホンイシガメをクサガメからどうまもるか」を開催した。趣旨説明ではこれまで明らかとなった研究結果について再

度整理をし、招待講演では最新の研究結果「クサガメによるニホンイシガメにおける遺伝的攪乱の実態」を松田悠之介氏に講演いただいた。事例報告では、福井県敦賀市中池見湿地でのクサガメ対策について、藤野勇馬氏(NPO 法人 中池見ねっと)、西堀智子氏(和亀保護の会／(一社)淡水生態研究所)、加賀山翔一氏((一社)淡水生態研究所)の三者から事例紹介いただいた。

科学的根拠に基づいた知見が適切に普及するとともに、ニホンイシガメの保全対策が前進していくことを期待し、各演者からの発表動画を以下に公表する。



第 11 回淡水ガメ情報交換会 外来種シンポジウム「ニホンイシガメをクサガメからどうまもるか」の各演者の動画 ①趣旨説明, ②招待講演「クサガメによるニホンイシガメにおける遺伝的攪乱の実態」松田悠之介氏, ③事例報告「クサガメ侵入! ラムサール条約湿地『中池見湿地』での対策と現状」藤野勇馬氏(NPO 法人 中池見ねっと), ④事例報告「中池見湿地での調査のきっかけとクサガメ・雑種防除の合意形成について」西堀智子氏(和亀保護の会／(一社)淡水生態研究所), ⑤事例報告「なぜクサガメを排除するのか? ニホンイシガメに与える潜在的な影響と保全効果」加賀山翔一氏((一社)淡水生態研究所)